

堂谷津の里 自然だより 2024年 9月

親子体験・稲刈り

2024. 9. 21

ようやく秋の気配を感じるようになりました。連日の猛暑、地面の温度が下がらず開花が遅れているヒガンバナ、里山では例年見頃の野草園のイヌシヨウマが未だ蕾が硬く・・・動植物への影響が心配です。とはいえ、秋の野草が少しずつ咲き始め、ゆっくり歩みを進める秋の里山です。



シオカラトンボ



オオシオカラトンボ



ノシメトンボ



オンブバッタ



コバネイナゴ



赤いトンボが飛んでます

マユタテアカネ

ナツアカネ

秋の生きもの



ショウリョウバッタ



ツチイナゴ

秋の草花



ツリフネソウ



ミゾソバ



ユウガギク



クモ(オオトリノフンダマシ)

<季節メモ> クズは有用? なぜ嫌われる

秋の野に咲きたる花を 指折りかき数ふれば七種(くさ)の花 萩の花尾花葛花撫子(なでしこ)の花 女郎花(おみなえし)また藤袴朝貌の花(山上憶良)

クズの花が咲き匂い、散るさまに秋の訪れを感じます。花の後には多くの莢(さや)をつけますが種子はできにくいものです。それなのに、猛烈な勢いで草木を覆いつくすのは、毎年地下に残る根によるものです。嫌われ者のクズですが、日本では古くから薬や食料などに利用され生活の中に根付いてきた有用植物です。

クズの根「葛根」は発汗や解熱などの効能があり、風邪の時に飲む「葛根湯」の主成分です。根から得られるデンプンを精製した「葛粉」は、今や高級菓子に利用されています。夏から秋に咲く**葛花**はジャスミンのような甘い香りを漂わせ、花に含まれるサポニン、脂肪の吸収を阻止するダイエット効果が期待でき、花を乾燥させた「**葛花(かっか)**」は煎じて飲めば二日酔いなどに効果があるとされています。クズは**食用**としても利用され、若葉や新芽は天ぷらや炒め物に、塩茹でして和え物に、花やつぼみも様々な利用されています。葛のつるで編んだ**かご**、梱包などの**結束紐**、驚くべきことに稲束を掛けるオダを組むにもツルが利用されてきました。古墳時代前期から使われていたとされる**葛布**、掛川市の手織葛布が地場産業として現存するのは、極めて特異なことです。クズはまさに日本人の文化に根付いた植物なのです。(晝間)

